

## 卷 頭 の 言

今日俸給生活者の住宅難と生活難とは想像以上に深刻であり特に下層官吏の場合に於て最も窮状にあると云へやう。狭い一部屋に數人の者が同居することは珍しいこととなく親子夫婦の一家族が數日間宛知人の間を轉々寄宿するの實例も尠くない。物價高に依る生活上の苦惱も亦甚しく、醫療費の乏しい爲に可惜幼き者の命を失ふことも稀でない。

總じて此等生活上の苦惱は上下層を通じての問題であり政府の熱意ある各種の對策が實施せられるにも拘らず依然として救濟せられない。住宅は全力を擧げて増加せられつゝあるけれども當分の間は到底要求數には及ぶ可くもない。相當なる時局手當を支給しても遙に物價騰貴率に及ばないのである。

之等窮状の根本的解決には崇高なる精神力の高揚が一義的であるけれども現實的には要員と住宅數、物價と生活費の調整とが根本をなす。吾々は全力を擧げて東亞聖戰の最高目標に對する精神力を戰場兵士の程度以上に迄高揚すると共に、當局は住宅數と要員數及物價と生活費等の關係を調査して至急其調査の具體化を促進しなければならない。若し其具體化が早急見込なきものとすれば此際斷然たる處置をとらなければならない。適當なる條件の下に於ける一時的日本送還の如きも一法であらう。なぜならば之等同情すべき一群は國策遂行の推進力たり得ない計りでなく寧ろ全體群の行動に對し反作用をなす恐れがある。反作用を含む總和力は反作用數を除いた總和力より其絶對値は大であるけれども其力は遙に弱いからである。現實の事態はかくの如き程度の對策を強行しなければならぬ事態に直面してゐる。